

熊本県公立高校入試問題の過去5年間における化学分野で正答率が低かった問題

	学年	単元	問題内容	正答率
平成29年	中1	物質の性質	プラスチックの浮き沈み	23.2
	中2	<b>化学変化</b>	発生する気体の質量が一定になる理由	<b>27.0</b>
平成28年	中1	水溶液	食塩水を冷やしてもほとんど結晶をとり出すことができない理由	47.0
	中3	<b>イオン</b>	化学電池における電極となる金属と導体としてはたらく金属板	<b>21.3</b>
平成27年	中2	<b>化学変化</b>	発熱反応の実験結果の比較と考察	<b>28.9</b>
	中3	<b>イオン</b>	酸とアルカリを混ぜ合わせたときに、モーターが回転する理由	<b>18.2</b>
平成26年	中1	気体の性質	二酸化炭素、水素の発生方法	63.4
	中2	<b>化学変化</b>	マグネシウムと酸素の反応をモデル図で表す	<b>30.9</b>
平成25年	中3	<b>イオン</b>	硫酸と水酸化バリウム水溶液を混ぜ合わせたときの化学反応式	<b>20.8</b>
	中1	状態変化	ろうの状態変化をもとに密度を求める	21.2